

change! MISAKI Vol.4

住民が創る、世界に誇れる岬町!
変えよう、岬町を。私たちで!

岬町議会議員 まつお ただし 松尾 匠

change! MISAKI は、岬町議会議員の松尾が、岬町の動き等、特に住民の皆様に関心をお持ちいただきたいことをお伝えします。
多くの方に町の政治を考えいただき、そして皆様の意見を、私たち議員に伝えていただくことが、より良い町をつくるいくことにつながると考えます。
行政のためなく、住民のための町となるように、皆様からいただく声を、私はしっかりと行政に伝えます。ご意見をお待ちしております。

PROFILE

- 岬町議会・事業委員会 委員長
- ・広報委員会 副委員長
- ・深日港活性化特別委員会副委員長
- 大阪府商工会青年部連合会 副会長
- 淡輪小学校PTA 会長
- 岬町商工会青年部 役員
- NPO法人Re-Live 理事長
- 株式会社オルタナティブ 代表取締役

1期4年の最終活動報告!

「循環型まちづくり」の実現へ!

私は議員として4年間、ある基本的な考え方を根底に持ちながら、そこからブレることなく活動や発言をしてきました。その考えは、エコロジー(環境保全)とエコノミー(経済活動)を掛け合わせた、モノやコトだけでなく人なども含めた、持続可能な循環型社会・まちづくりの実現です。

それは、今の環境や資源を破壊して中途半端に新しいハードを都度つくる事ではなく、今の環境や資源を使って新たに有効活用し、時代に合った新しいソフトをつくることです。岬町の自然環境の良い雰囲気と、奥深い歴史や文化を最大限に利用して、民間が主体となって経済活動を繰り広げ、町全体でにぎわいをつくり、次世代に繋げる環境を創る。

大切なのは、行政主体ではなく住民が主役となり、みんなで未来への希望に満ち溢れたまちづくりをしていくこと。その環境をつくりサポートするのが議会の役目であり、行政の使命だと考えます。

私はその考え方を持って議員としての4年間、「地方創生」を中心に数多くの事業提案をしてきました。議会で発言・提案等してきたことを振り返り、この4年間で町がどう変わったのかを検証します。

議会議事録はこちら!

(H27/6月～H31/3月)

岬町議会議事録

岬町議会ホームページで発言の全てを確認できます。

循環型まちづくり その1

まちづくりに取組む人を増やし支える

まちづくりは行政がするのではなく、行政はあくまで住民のサポート役です。主役は私たち住民です。皆様がご自分の夢に向かって町で様々なことに挑戦し、生き活きと活動いただくことで、この町は必ず変わります。その活動する方々の生の声を、我々議員が町に届け、行政が必要なところをサポートして盛り立てる。これが発展する町のあり方だと私は考えます。そのためには、まちづくりに取組む人「プレイヤー」が増えないといけません。まちづくりとは、ボランティアで様々な活動をすることだけでなく、町で仕事や商売をすることも含みます。皆様1人1人に個性があります。その特技や知識などの個性をどうか活動に活かしてください。また私は町で活動される方々同士が話し、連携できるような場をつくり、そこで大きな町のビジョンを皆様で共有しそれに向けて活動できるような環境を整備したいと思っています。それが地方を創生し、持続可能にまちづくりができる、循環型まちづくりの原点になると考えます。みんなで「楽しい町」を創りましょう!何かを始めようとお悩みの皆様、ぜひご一報頂き、お手伝いをさせてください。

松尾 匠の、議会一般質問の主な内容

- | | | |
|---------|---|--|
| H27年 6月 | ●岬町には生産物の出荷・販売先が少ない。プレイヤーを生み育てる環境を創るため、地元の農業や漁業の生産物等の販売先の創設を! | ●道の駅みさきができる、そこで地元農・漁業者が生産物の販売が可能に |
| H28年 3月 | ●仕事や雇用創出の対策としてどのような取り組みをしているか? | ●「地域就労支援事業」で就労相談や、就職に向けての実務的な講座開設を継続 |
| H29年 3月 | ●町内で新たに事業を始める方の創業支援や、担い手不足である農業や漁業への就労支援の取組みはあるか? | ●創業支援補助金(補助対象経費の1/2、上限50万円)、農・漁業新規就労者支援事業補助金(家賃補助月額1~2万円)、岬町創業支援利子補給金(借入利率の1%相当額)制度を創設 |
| | ●地域おこし協力隊を募集し、どんな事業を展開するのか?協力隊には事業ミッションを明確に伝え、役割を明確にすべき! | ●2名の「まちづくりエディター(地域おこし協力隊)」を募集し、空き家問題の対策、町の賑わいづくりに従事 |

岬町の動き・答弁

- 道の駅みさきができる、そこで地元農・漁業者が生産物の販売が可能に
- 「地域就労支援事業」で就労相談や、就職に向けての実務的な講座開設を継続
- 創業支援補助金(補助対象経費の1/2、上限50万円)、農・漁業新規就労者支援事業補助金(家賃補助月額1~2万円)、岬町創業支援利子補給金(借入利率の1%相当額)制度を創設
- 2名の「まちづくりエディター(地域おこし協力隊)」を募集し、空き家問題の対策、町の賑わいづくりに従事

★まとめ★

この4年間で、創業される方や、農・漁業の新規就労者への支援としての補助金などが創設されました。まだ不十分だと考えます。またプレイヤーを産み育てる環境もまだ整備を始めるにも至っていないのが現状です。自分の夢のために、この町のために、何かを始めようと思う方を、私は議会でも1プレイヤーとしても全力で応援していきたいと思います。



活動の動きはこちらから。

▼▼ 松尾 匠のホームページ ▼▼

<http://t-matsuo.net>

岬町 松尾 匠



ご意見・お問合せは ▼こちらへ▼

mail@t-matsuo.net

循環型まちづくり その2

空き家対策と空き家を使った移住促進

私は、町にとって空き家は大切な「資源」と捉え、まだ使える家屋は使いたい人に使っていただける環境を整えることが、人口を増やすことに繋がると考えます。都市部の若い方には、老朽化が激しくても安く買ったり借りて、自分でリノベーションをして田舎で住みたい!という方が多いのです。転入促進のためにも、空き家を有効活用し「循環」させて、人の「循環」も活性化させることを私は促進しています。それには皆様のご協力が必要です。空き家をお持ちの皆様、町の人口増加・町の活性化のため、空き家バンクへの登録をお願いします!空き家バンクは、家を貸したい人と借りたい人を結ぶ町の制度です。空き家は放っておくと朽ちていきます。売ったり貸したりする方が、収入が入り、人の手が入った家は長持ちし価値も下がらず、町の景観も良好に保てます。空き家バンクについては、岬町都市整備部建築課までどうぞ。

松尾 匠の、議会一般質問の主な内容

- | | | |
|---------|--|---|
| H27年 6月 | ●空き家バンクの物件登録が0件。増やす努力を!また空き家バンクの仲介業者との契約制度が増加の妨げにならないか? | ●観光客誘致の観点から他事例の情報収集・調査研究をする。また空き家バンク制度の効果的な発信に努める |
| 12月 | ●クラウドファンディングでゲストハウスや民泊の運営など、地方では空き家を活用した観光客誘致が進む。そんな取組を促進しないか? | ●空き家の有効活用のため、空き家の実態把握に努める |
| H28年 3月 | ●町中に空き家が急増中。空き家の実態調査を進めるべき! | ●岬町全域で空き家の実態調査を開始 |
| 6月 | ●住民へ空き家問題の意識を喚起するために、各集会で空き家についてのセミナーを開催する等、積極的な行動をすべき! | ●専門家を講師にした空き家についてのセミナーを開催 |
| H29年 3月 | ●空き家でお困りの方は多いのに空き家バンクの物件登録が進んでいない。原因を調べ、効果的な制度の周知を積極的に行うべき! | ●固定資産税納付書に空き家バンク制度の知らせを同封、また空き家の持主には、空き家についてのアンケートを実施し、現状やニーズを把握 |
| 8月 | ●空き家活用のプレイヤーを増やす一方で、空き家の持主には空き家を放置しないよう伝える対策を講じることが重要! | ●「空き家再生事業補助」(空き家の改修、清掃、家財道具の処分等に上限5万円)の制度を創設 |
| 12月 | ●空き家バンク登録を増やすために、空き家所有者と利用希望者の間で直接交渉や取引もできる空き家バンク制度に改めないか?※1 | ●空き家所有者情報を収集。管理不全は助言・指導を行う |
| H30年 6月 | ●空き家実態調査の結果から、倒壊の危険性が高い空き家の対応策を! | ●防犯面や維持管理面は、民間事業社と連携を検討。修繕費用面は空き家再生事業補助制度と優遇金利の融資制度を設ける金融機関を案内し、周知を図る |
| | ●空き家所有者へ空き家問題の解決を促すため、空き家の所有でお困りの方へ解決策やフォローを講じないか?また空き家問題の課題に応じた、分かりやすい対策案内情報紙を作成し配布しては? | ●直接取引を行っている市町村の事例や利用希望者の意見を参考に、調査研究する |
| | ●空き家バンク登録を増やすために、空き家所有者と利用希望者の間で直接交渉や取引もできる空き家バンク制度に改めないか?※1 | ●直接当事者間で交渉する直接型と、宅地業者が仲介する間接型の、2通りから選択できるよう、制度見直しを進める |
| | ●空き家バンク制度の見直しの進捗状況を問う! | ●「お試し居住事業」を実施 |
| | ●転入促進策として、岬町で短期間生活を体験できる「お試し移住」制度を実施しては? | ●H30年10月に改正された空き家バンク制度を施行※1 |
| | ●見直し中の空き家バンク制度は、いつまでに施行を目指すのか? | ●まちづくりエディターに移住支援の役割を担ってもらう |
| | ●空き家所有者には空き家の活用方法を、町外からの移住希望者には地域や空き家等を紹介し、手厚いフォローにて転入と空き家をマッチングし高確率で移住を成功させる「移住相談員」を配置しないか? | ●お試し居住の利用状況を踏まえ、制度を検討する |
| | ●空き家バンクの登録物件をお試し居住として利用し、そのまま購入や賃貸ができる制度を創れば、空き家の解消と移住者の増加を同時に見込めるが、そんな制度を創らないか? | ●漁業等の職業体験用にも利用へ |
| | ●移住には仕事も重要な要素。職業体験もできるお試し居住制度としては? | ●宅地建物取引業協会と連携する |
| | ●空き家問題と転入促進に、もっと民間の力を借りて協働しないか? | |

※1 改正空き家バンク



★まとめ★

空き家バンクの登録物件が0件を更新し続けて来ましたが、空き家問題の解決に、空き家の実態調査や空き家バンク制度の見直しはじめ、様々な角度で提案し注力してきた結果、この4年間で空き家バンクでの登録物件が増え、契約成立物件も現れるようになりました。今後も引き続き、空き家の活用に向けた施策と、人口が少しでも増えるような転入促進策を考えていくことを継続していきます。人口が増えれば、税収増から福祉の増進、商店の増加、町の賑わいの復活など、住みよい町へと繋がります。転入者が住みよい環境だと感じるよう、私たち町民の受け入れ意識や、共存意識も高めていく必要があります。それは私たちの子や孫など次世代が末永くこの岬町で暮らしていくために必要なことです。みんなで「良いまち」を創っていきましょう!

循環型まちづくり その3 町を木造化・木質化へ

木は再生可能資源であり林業の保全・災害防止になり国も公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律を定め、全国で木質化の動きが。海沿いは木造建築が相性良く木は調湿性能を持つ等、多数の利点が。防災拠点の機能も備えた東日本大震災復興第一号庁舎の福島県国見町庁舎を参考に、緑の中庭のある岬町マークのような形をした庁舎を提案しました。

H28年 9月

H30年 12月

- 木造化や木質化で庁舎建て替えを考えないか?その観点から、国などから補助制度が得られないか?
- 木造化・木質化の考え方を十分に参酌し、木造化・木質化に努める

循環型まちづくり その4 災害対応力向上へ

昨年台風21号被災時、町職員の間で避難所運営の意識や行動に差が見受けられたことから、災害は常に来るものと考え、全職員への避難所運営マニュアルの徹底と定期的な研修会を開き、各自の役割を明確にし危機意識の向上と、災害時の夜間対応の仕組みづくり等を提案しました。

H30年 12月

H30年 12月

- 災害時、夜間対応が可能な配備態勢の仕組みづくり!
- 定期的に研修会等を開催し、避難所運営の意識を高めて!
- 担当部署と協議調整し対応に努める
- マニュアルの周知徹底、研修等で意識を高める

循環型まちづくり その5 観光産業の創出・促進

岬町には主な産業がありません。なぜか。今まで仕事や雇用を企業に頼りきり「負んぶに抱っこ」の状態だったため、主となる産業を創って来なかつたことも原因です。関西電力火力発電所など大きな企業が撤退した後、町の衰退が激しいことからわかるように、ここで学ぶべきは、**仕事や雇用を企業一辺倒にすることは大きなリスクを背負うことだ**とすること。ではどうすべきか。**『新しい産業を「自分たちで』創ること』**です。自分たちで産業を創ることは、自分の力で生きていくことであり、根本を揺さぶられることはないのです。何も難しくはありません、岬町には海も山も畠も古墳も歴史も文化も空き家も豊富です。この豊富な資源を、私たち住民が「ソフト」によって、町外のお客様に楽しんでいただけるよう、**観光メニューを創り「稼ぐおもてなし」をすること**。今や「モノからコト」消費の時代。私たちで体験型の観光メニューを創出し町全体でおもてなしができるとなれば、町に人は自然とやって来ます。**これが「観光産業」であり「資源を守り有効活用して新たな産業を創る」持続可能な循環型まちづくり**です。観光産業は「見る」「知る」「食す」「遊ぶ」「体験する」「癒す」「泊まる」など様々なサービスが当てはまり、皆様の想像力と行動でこれらは実現できます。夢の実現に、ぜひ皆様をサポートさせてください。

松尾 匡の、議会一般質問の主な内容

- | | |
|------------|---|
| H27年
6月 | <ul style="list-style-type: none">●持続可能な運営には、岬町観光協会も独自で収益事業をすべきと考えるが、運営財源は？町は今後どう関わっていくのか？●おもしろく価値ある観光プログラムで観光客の滞在時間を延ばす観光ルートづくりを行政と民間が協働して考えないか？ |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none">●観光産業の育成や発展のために、資源の環境整備に力を入れ、新しい仕事の創設を手助けし、前向きに観光ビジネスへ挑戦できる環境を！●地域資源が豊富である岬町は観光産業に力を入れるべき。ビジョンを明確にし、観光ビジネスのプレイヤーを発掘し、手助けとなるよう環境整備をし後押しすべきと考えるが、町の考える岬町にふさわしい新たな産業とは？ |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none">●観光事業での循環型の収益システムの構築と若い人材の迎え入れがプレイヤーを生み育てると考えるが、改めて観光協会の運営の考えと、今後の事業計画や動きは？ |
| H28年
9月 | <ul style="list-style-type: none">●「見る」より「体験」で感動を与える観光は、リピート客を増やす産業振興に繋がる。価値あるサービスの創生のため、町はプレイヤーを育て、道の駅とを繋ぐ連携役となるべき。観光が産業振興に繋がると考えるが、町の産業振興の活性化策はあるか？ |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none">●岬町含む9市4町と関西エアポート（株）で組織された、泉州のプロモーション活動を推進する泉州観光プロモーション推進協議会が、観光地経営で観光地域化を推進し、地域の稼ぐ力をつくるDMO設立に動いているが、町はこの取組みにどう関わるのか？ |



循環型まちづくり その6 すばらしい景観と資源を守り活かす

空き田畠や山等に乱立が続く太陽光発電事業のソーラーパネル。観光まちづくりを推進する岬町には景観上良くなく、設置規制がないため災害時の問題や周辺住民とのトラブルも起きている状況。私は太陽光パネルの乱立を防ぎ風光明媚な景観を保全しながら共存可能な方策として、一定の面積を超える場合は届出を定めたり、地域の良好な景観資源等への近接を避けたり、太陽光パネルの配置や形態・色彩を規定したり、周辺の自然環境に合わせるよう指導したり、周辺住民へ説明会等で理解を得るよう努める等を盛り込む、岬町独自の景観条例を提案した結果、条例が制定されるようになりました。桜やツツジなどの緑を大規模に伐採された淡輪のあたご山や旧深日ゴルフ場跡地。一度壊された自然は二度と元に戻せません。今後も私は生まれ育った岬町の景観を、まちづくりに活かしながら守っていけるような持続可能な循環型の提案を続けていきます！

松尾 匠の 議会一般質問の主な内容

- | | |
|-------------|---|
| H29年
12月 | ●法的拘束力のない太陽光発電事業による太陽光パネルが乱立し町の景観が崩れ、災害の恐れや周辺住民とのトラブルもある。和歌山市等が独自の景観条例を制定しパネルの規制を定めている。岬町も同様に、独自の景観条例の制定を |
| H30年
12月 | ●太陽光パネルの乱立で崩れる岬町の景観を保全するため、町独自の景観条例の制定を提案して1年が経つ。いつまでに制定を目指すのか? |

岬町の動き・答弁

- 他府県の規制等を調査研究し、ガイドラインの策定に向けて情報収集に努める

 - H31年3月議会で「岬町太陽光発電施設の設置及び管理に関する条例」を制定

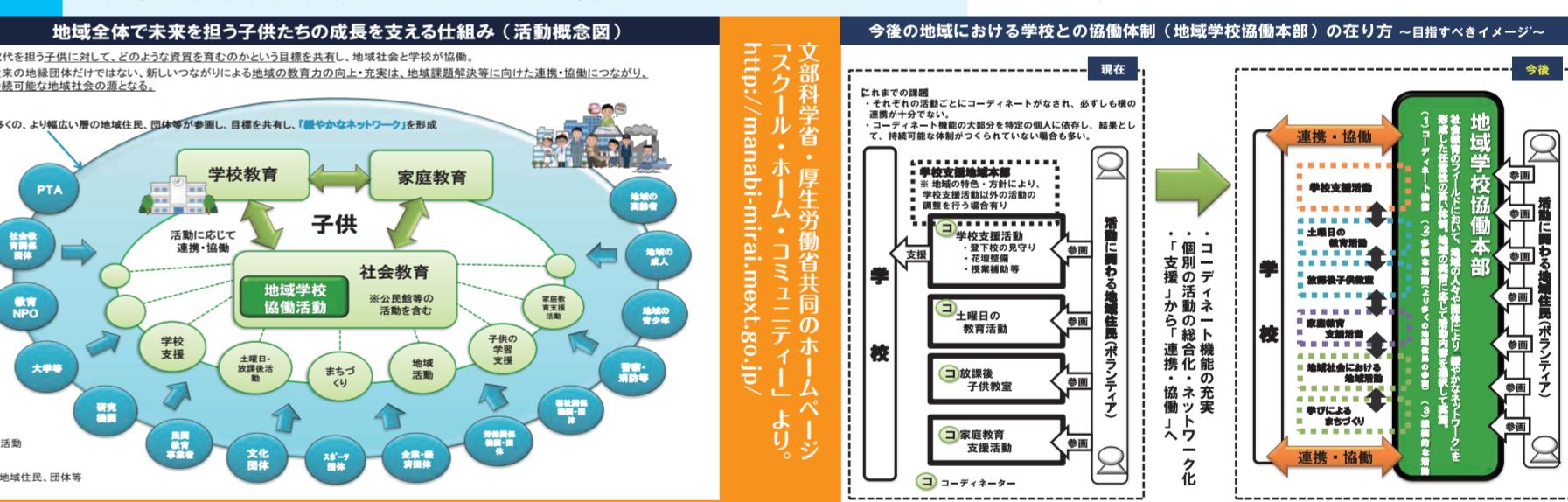


型まちづくり その7 学校と地域の連携による子育ての循環型まちづくり

ボランティアの皆様やPTAによる子ども達の見守りをはじめ地域の方々や各種団体の協力により、岬町の学校では地域との良いふれあいがあります。一方で都市部の学校では、防犯等の対策で「閉じられた学校」へと進み、また授業日数の確保や子ども達のSNSを使った高度化等、急速な社会情勢への変化の対応などで先生方の負担は増すばかり。また少子化による学校内の空き教室も増加し課題に。
れば、もっと地域の方々や各種団体に学校行事のお手伝いや参加、また外部講師やクラブ顧問等でもご協力を願うれば、先生方の負担を減らせ、また子ども達にとっては社会性と専門知識を高めます。空き教室については「資源」と捉えて、協力関係の各種団体に活動拠点としての活用や「空き教室のリノベーション」を授業に取り入れ、完成した教室でフリーマーケットやマルシェ等を開催することで、地域の方々の顔がわかる深い関係を築き、逆に学校の防犯機能を高め安全な学校づくりとなるのです。私も淡輪小学校時代、学校林で植樹等の体験はとても鮮明に覚えており、こういった体験の積み重ねが先生方や地域の皆様に愛され育てられたという、地元愛に変わりました。
に愛され育った子ども達が大人になり子ができる時、自分が育った環境で同様の子育てを希望するようになるはずです。これが「子育て循環型まちづくり」であり、地域と深く繋がった「開かれた学校」は地域を活性化し、岬町独自の「地方創生」となるのです！

匡の、議会一般質問の主な内容

- | | | |
|---|--|---|
| <p>9年
2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●H28年開催の岬町子ども議会の結果をどう思うか？子どもの時から町づくりを考える機会をつくる事は、町政への関心と町への愛や誇りを醸成し議員のなり手不足解消にも繋がる。「無関心」が町や政治をダメにする。定期開催する自治体も多い。定期開催の体制づくりを検討しないか？ | | <ul style="list-style-type: none"> ●子ども議員の感想等から貴重な体験と有意義な会議だったと感じた。開催には準備に時間と負担がかかる上、授業時間数の確保が課題で定期開催は難しいが、町の周年記念事業等で開催を検討する |
| <p>1年
3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の方々や各種団体の協力により、淡輪小学校では学校林での各種体験、盆踊り教室など、深日小学校では体験学習や演奏会など、多奈川小学校では餅つき大会や喫茶めだか組など、地域との連携の取組みがあるが、今後予定の新しい地域との連携の取組みはあるか？ | | <ul style="list-style-type: none"> ●深日小学校3年生が、南海電鉄多奈川線と岬町のコミュニティーバスの現状と課題を地域に出向いて調べ、利用が減少する公共交通の活性化案を考え、その思いや願いを学校、地域、行政、企業、大学が連携して実現する事を目的とする、交通環境学習を実施 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●学校の先生方の労働負担が増していると聞く。先生方の負担減と、学校と地域の繋がりや子ども達の社会性を高めるためにも、熱心な安全ボランティアの方々にもっと学校行事のお手伝いと参加をお願いしては？また地域で専門性に長ける方や各種団体にも、外部講師やクラブ顧問等でご協力をお願いしてはどうか？ | | <ul style="list-style-type: none"> ●学校と調整しながら、必要に応じて検討したい |
| <ul style="list-style-type: none"> ●生徒数の減少による空き教室が目立つ。学校との連携を密にできるよう協力関係の各種団体に活動拠点として活用してもらえば？また「空き教室のリノベーション」を授業に取り入れ、完成した教室で子ども達の手作り品販売や、地域の方々とマーケット等を定期開催しては？ | | <ul style="list-style-type: none"> ●開かれた学校づくりが必要。現在地域安全センターや会議室を地域の方々に利用いただいているが、今後も地域との連携にあたって活用いただきたい |
| <ul style="list-style-type: none"> ●文科省と厚労省では、学校支援地域本部等、地域と学校の連携体制に、より多く幅広い層の地域住民・団体等が参画・連携し学校活動へ協働する体制「地域学校協働本部」を推進している。今後のビジョンは？ | | <ul style="list-style-type: none"> ●深日小学校の交通環境学習をモデルに、学校と地域だけでなく、企業や大学とも連携した新たな連携を検討していきたい |



景型まちづくりめぐみ8 「買い物弱者」対策

・0年には高齢者は2人に1人となる岬町。超高齢化を迎える町は今能や便利さを保つのが困難な状況が予想される中、**買い物が困難な方**えます。そんな方々のための持続可能な対策を今から考えるべき。のバランスを見ながら受益者負担の考えで、**会員制の買い物専用バス**各地域で運営するデマンドタクシー等、行政だけでなく商工会や社協各種団体と協議の場をつくり仕組みをつくっていくべきと考えます。

の議会一般質問の主な内容

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ●買い物が困難に感じる方の対策は?進捗状況は? | ●重要な施策だが、具体的な検討に至っていない |
| ●会員制の買い物バスの設置等で対策できないか? | ●多額の財源が必要で財政状況を勘案すると困難 |
| ●実態把握のため住民へアンケートをとる考え方? | ●各種団体等と協議の場を作り実態調査令め検討する |

循環型まちづくりの9 議会をより身近に!

町政への「無関心」が町の成長を阻害する一番の要因。私は皆様に議会や政治に理解と関心を持って身近に感じていただきたい一心で、デザインの専門技術を持つ自分へ一番大きな負担が来ることを理解しながらも長らく休刊中だった議会だよりの復活を提案し、議会広報委員会の発足に至りました。一番負担が大きい全ページのデザインと編集作業、画像処理等を引き受け、委員会で協力して、広報委員会として計8刊発行してきましたが、委員会で毎回時間をかけ丁寧に創ってきたおかげで、第33回町村議会広報全国コンクールで「奨励賞」をいただきました！



今後は、私以外で制作できる委員が現れるかが課題ですが、私が議員を続けさせていただける限り、今まで継続します。